

SHIRASAGI®

環境経営レポート 2024

ea
エコアクション21®
認証番号0008443



白鷺電気工業株式会社

発行：2025年8月31日

対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日

CONTENTS

1. TOP MESSAGE	P2
2. 会社概要と企業理念 / 白鷺電気工業Vision80	P3
3. 白鷺電気工業の歩み	P5
..... Plan	
4. 環境経営目標計画	P7
..... Do	
5. 実施体制と活動内容	P9
..... Check	
6. 取組実績と評価	P13
二酸化炭素排出量の削減 / ガソリン・軽油使用量の削減	
電気使用量の削減 / 水使用量の削減・廃棄物排出量の削減	
白鷺電気工業電気Vision80 活動実績	
環境経営目標 / 環境経営計画（2025年度～2027年度）	
環境関連法規への確認および評価、違反・訴訟	
..... Action	
7. 代表者による全体評価と見直し	P26
資格取得一覧	

編集方針

〈認証・登録範囲〉	本社・八代支社・福岡支社・京都支社・人吉営業所・鹿児島営業所・しらさぎエナジー株式会社		
〈報告対象期間〉	2024年4月1日～2025年3月31日		
〈環境管理責任者〉	松山 茂人	〈発行日〉	2025年8月31日
〈参考ガイドライン〉	「エコアクション21建設業向けガイドライン2017年版」 「すべての企業が持続的に発展するために-持続可能な開発目標(SDGs)活用ガイド-」		
〈お問い合わせ先〉	白鷺電気工業株式会社 / 担当 内田 〒861-8035 熊本県熊本市東区御領8丁目3-38 TEL(096-380-7171) FAX (096-380-7140) https://www.shirasagidenki.co.jp		



「持続可能な社会の実現と経営の変革」

白鷺電気工業株式会社は、1947年の創業以来、77年間にわたり、電気エネルギーの「くらしと産業の礎」を拓いてまいりました。今日、当社は単なる電気工事会社を越え、持続可能な社会の実現に向けて、積極的に変革を進めています。

当社は「人を大切にし、育てる企業」として人的資本経営を推進しています。人材を「資源」ではなく「資本」として捉え、その価値を最大限に引き出す経営を本格化させました。2023年9月に「人的資本経営コンソーシアム（※経済産業省が支援する企業内連携組織）」へ入会し、社員の幸福度向上に注力しています。2023年度に男性育児休業取得率100%を達成し、不妊治療休暇や子の看護・介護休暇の有給化、1時間単位休暇制度の導入などを推進し、社員のライフステージに応じた制度を充実させてきました。この結果、直近3年間の離職率は4.5%と建設業界平均を大幅に下回る水準を維持しています。

建設業界の働き方改革を先導するため、当社はDX（デジタルトランスフォーメーション）を積極的に推進し、2024年3月に経済産業省より「DX認定事業者」として認定されました。車両管理アプリ「Mobility Passport」やオンライン会議システムの活用により、既に業務の効率化を実現しています。これらの取組みを通して「幸福度No.1企業」の実現を目指しています。

経営戦略としては「両利きの経営」を4年目を迎え、既存事業の「知の深化」と、電動車の蓄電池を活用した需給調整市場への日本初の参入に見られる「知の探索」を高次元で両立しています。カーボンニュートラルの実現へ向け、2027年の創業80周年までに社有車の対応可能な車両を段階的に電動車へ置き換える計画を進めています。九州・熊本県で初めて導入したEV通勤×職場充電サービス「Hakobune」の導入により、社員の通勤時の二酸化炭素排出量削減と災害時の電力確保を同時に実現しました。また、2023年12月に熊本市と「カーボンニュートラルの実現及びレジリエンス強化に関する連携協定」を締結し、地域全体の脱炭素化に貢献し、次世代により良い環境を引き継ぐ責任を果たしてまいります。



代表取締役社長 沼田 幸広

会社概要

事業者名	白鷺電気工業株式会社	
代表者	代表取締役社長 沼田 幸広	
所在地	〒861-8035 熊本県熊本市東区御領8丁目3番38号	
	八代支社	八代市宮地町1680
	福岡支社	福岡市博多区博多駅中央街8-1 JRJP博多ビル3F
	京都支社	京都市右京区梅津南広町6-1 エスパシオ梅津4-A号
	人吉営業所	人吉市願成寺町1343-1
	鹿児島営業所	鹿児島市西千石町11-21 鹿児島MSビル6階
	しらさぎエナジー株式会社	上益城郡益城町小谷2224-8
資本金	1億円	
創立	1947年2月	
事業内容	電気工事業、土木工事業、とび・土木工事業、鋼構造物工事業、塗装工事業、水道施設工事業、管工事業、電気通信工事業、消防施設工事業、機械器具設置工事業	
認可・許可	特定建設業 国土交通大臣許可第18899号 電気工事業、土木工事業、とび・土木工事業、鋼構造物工事業、塗装工事業、水道施設工事業 一般建設業 国土交通大臣許可第18899号 管工事業、電気通信工事業、消防施設工事業、機械器具設置工事業	
審査・登録	建設業労働安全衛生マネジメントシステム(COHSMS)(建設業労働災害防止協会)、エコアクション21(持続性推進機構)	

■SEESが支える地域の暮らし

総合技術商品である「しらさぎ 電気エネルギー総合システム(SEES)」は、これまで培ってきた発変電・送電工事の技術を基盤に、電気設備の新設・補修工事や太陽光・風力発電等の新電気エネルギー導入のご提案、経済環境には不可欠な省エネルギー・省コストの実現、さらに快適なオール電化のご提案、ビルや事業所の保守・メンテナンスを行い、皆さまのくらしと産業をサポートする体制を構築していきます。

でんきて 広がる 楽しい地球。



くらしと産業の礎をひらくパートナーシステムの白鷺電気工業

存続6ヶ条

- | | |
|---------|---|
| 1. 安全 | 私たちは作業環境の整備を図り、災害ゼロの明るい職場をつくります。 |
| 2. 協調 | 私たちは相互信頼の精神に立ち、常に相手の立場で考え方行動します。 |
| 3. 技術 | 私たちはいかなる要望にも即応できる技術としづみを開発します。 |
| 4. 啓発 | 私たちは常に前進を忘れず、昨日よりも今日、今日よりも明日と自分をみがきます。 |
| 5. システム | 私たちは受注から完成、アフターサービスまでよきチームワークでムダ、ムラ、ムリのない相互協力を行います。 |
| 6. 業績 | 私たちはよい仕事を安く、早く、きれいに仕上げることにより信用・業績を高めます。 |

環境経営方針

制定 2011年12月1日 改訂 2019年 7月1日

【基本理念】

白鷺電気工業は、「企業使命感」及び「存続6ヶ条」に基づき、国際社会の目標である「持続可能な開発目標(SDGs)」を考慮した事業活動を行い、社会・経済の発展と地球環境保全に貢献していくとともに、地球上の誰一人として取り残さない(Leave no one behind)ことを理念としてSDGs達成に向けた活動に積極的に取組みます。

【行動方針】

環境に配慮した事業の推進

事業活動における環境への影響を低減させるため、環境への配慮を行うための目標を明らかにするとともに、これに基づく取組をPDCAサイクルの繰り返しにより継続的な改善に取組みます。

法規等の遵守

事業活動に関係する品質・環境関連法規制、条例、協定及びその他合意した事項を遵守します。

啓発活動の推進

環境教育、環境社会貢献活動などを通して本方針を周知するとともに、社員の環境保全の意識の向上を図り、地域の環境保護活動に積極的に貢献します。

コミュニケーションの推進

社内外のステークホルダーとの積極的な環境コミュニケーションを進め、相互協力を努めます。

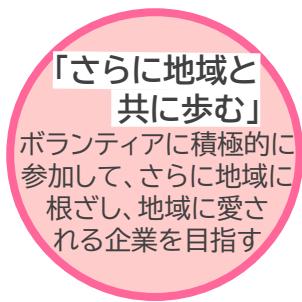
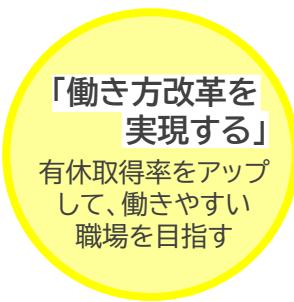
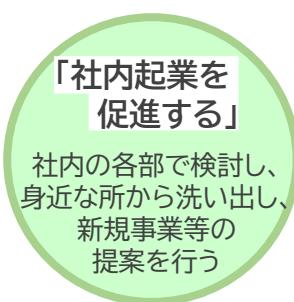
SDGs(Sustainable Development Goals)への取組み

「知る」から「行動する」、そして「貢献する」へとSDGsに対する取組みに注力します。

白鷺電気工業株式会社
代表取締役社長 沼田幸広

白鷺電気工業Vision80

80周年に向けた事業展開のすべての指針。そのための骨格となる4つの柱



会社沿革

1947. 2 八代市萩原町に白鷺電気工業所を創業
1977. 3 鹿児島営業所開設
1987. 4 人吉営業所を開設
1988. 7 福岡営業所を開設
- 2009.12 電気自動車 導入
2011. 3 電気自動車用急速充電器設置
2012. 4 京都支社を開設
2013. 3 「しらさぎエナジー(株)」設立
「メガソーラーしらさぎ高遊パーク
発電所」竣工

メガソーラーしらさぎ高遊パーク
2015. 2 白鷺電気工業の100%持株会社として
「しらさぎホールディングス(株)」設立
2017. 2 創立70周年
2017. 4 しらさぎファーム(株)が
「農業所有適格法人」として活動開始
2018. 2 新社屋竣工、本社移転
2018. 6 新本社ビル Nearly ZEB 達成
- 2019.12 EVバスプロジェクト 実証運行スタート
2022. 3 西日本初ZEH-M Ready仕様の社員寮「カーザ・エグレッタII」完成
2023. 1 ハイブリッドファン
販売開始

ハイブリッドファン
- 2023.11 「白鷺電気工業DX計画」を
策定・公表
2024. 7 日本初のEVを活用した需給調整市場への
参入を開始



西日本初ZEH-M Ready仕様の社員寮



しらさぎファーム(株)



社用EV車にラクラク充電

エコアクション・環境経営レポート歴史

歴代の環境経営
レポートを一部
ご紹介

これまでに多くの賞を
受賞しています！

2012. 6 「エコアクション21」認証
2012. 7 環境経営レポート 初刊発行

2012.7 初刊発行
2014. 4 環境経営レポート発行
「環境活動レポート大賞・九州」
エネルギー部門賞 受賞

2014.4 発行
- 2015.12 環境経営レポート発行
「環境活動レポート大賞・九州」
九州地方環境事務所長特別賞 受賞
「環境コミュニケーション大賞」優良賞受賞

2015.12 発行
- 2021.10 環境経営レポート発行
「エコアクション21 オブザイヤー
2021」銅賞 受賞

2021.10 発行
2022. 8 環境経営レポート発行
「環境活動レポート大賞・九州」SDGs 受賞
「エコアクション21 オブザイヤー2022」
ソーシャル部門 銅賞 受賞

2022.8 発行
2023. 8 「環境経営レポート大賞・九州」
九州環境カウンセラー協会特別賞 受賞
「エコアクション21 オブザイヤー2023」
ソーシャル部門 銀賞 受賞

2023.8 発行
2024. 8 「環境経営レポート大賞・九州」
選考委員会特別賞 受賞
「エコアクション21 オブザイヤー2024」
ソーシャル部門 銀賞 受賞

2024.8 発行



NPO法人しらさぎとSDGs活動の歴史

- 1998. 7 特別養護老人ホームやすらぎ荘清掃奉仕活動からスタート
- 1999. 8 八代城跡の清掃奉仕活動をスタート
- 2004. 7 熊本城の清掃奉仕活動をスタート
- 2007.11 NPO法人 しらさぎ 設立
- 2008. 4 阿蘇西原村植林活動をスタート
- 2010.12 阿蘇西原村下草刈りをスタート
- 2016. 7 熊本市江津湖で清掃奉仕活動をスタート

表彰

- 2012 第21回くまもと環境賞「奨励賞」
- 2014 第23回 「くまもとストップ温暖化賞」
- 2015 環境大臣表彰 地域環境美化功労者 受賞
- 2015「肥後の水とみどりの愛護賞」受賞



水前寺成趣園清掃活動



八代城跡清掃活動

- 2022.11 西原村灰床地区植林活動をスタート
- 2023.9 水前寺成趣園清掃活動をスタート

⋮

- 2024.7 西原村灰床地区下草刈りを実施
- 2024.9 水前寺成趣園清掃活動を実施
- 2024.10 八代城跡の清掃奉仕活動を実施



八代城跡清掃奉仕活動の記念写真

熊本城の清掃奉仕活動

- 2018.12 年末の食事イベントで『3010運動』を実施
- 2019. 5 就労支援施設と協力し、オリジナルのSDGs木製バッジ作製を開始
- 2019. 7 社員旅行の夕食時に『3010運動』を実施
- 2019.10 全社員対象 e-ラーニングでSDGs学習を開始
- 2020.10 地元の高校生に環境教育の一環でSDGsの取組みを伝える
- 2021. 3 お取引先様と協力し、絶滅危惧種の『ニホンメダカ』を飼育
- 2021. 5 第1回『ニホンメダカ』を地元の小学校へ寄贈
- 2021. 8 熊本県SDGs登録事業者『第1期』登録『パートナーシップ構築宣言』を公表
- 2022. 5 第1回フードドライブ実施
- 2022. 7 社員旅行の夕食時に『3010運動』を実施
- 2022.10 新入社員へe-ラーニングでSDGs学習を開始

⋮

社内ポスターや社内教育で

従業員へ啓発！



SDGs教育



社内掲示ポスター

- 2024.5 第4回『ニホンメダカ』を地元の小学校へ寄贈
- 2024.7 社員旅行の夕食事に『3010運動』を実施
- 2024.9 第7回フードドライブ実施
- 2024.12 年末の食事イベントで『3010運動』を実施
- 2025.3 花見で『3010運動』を実施



地元就労支援施設での木製バッジ作製時の様子



【3010運動】
オリジナルポスター

環境経営目標計画

環境経営目標

対象期間／2022.4～2025.3

区分	項目	基準年 2021年 実績値	単位	3年間の目標		
				2022年 ▲1%	2023年 ▲2%	2024年 ▲3%
二酸化炭素排出量 (電力・ガソリン・軽油)	二酸化炭素 排出量の削減	364,464	kg-CO ₂	360,819	357,175	353,530
電力使用量	電力の削減	167,678	kWh	166,001	164,324	162,648
ガソリン使用量	ガソリンの削減	95,327	L	94,374	93,420	92,467
軽油使用量	軽油の削減	25,194	L	24,942	24,690	24,438
一般廃棄物 排出量	一般廃棄物削減	8,448	kg	8,364	8,279	8,195
産業廃棄物 排出量	産業廃棄物削減	116,681	kg	115,514	114,347	113,181
水使用量	水使用量の削減	468	m ³	463	459	454
カーボン ニュートラル 実現	電動車へシフト	13(72%) (2021年度実績)	台	14 (1台追加)	15 (2台追加)	16 (3台追加)
環境に配慮した 事業活動	社会への啓発 活動の推進	2	件/年	2	2	2
化学物質の 管理	化学物質の 適切な管理	1	回/ 四半期	1	1	1

(注記) 1. 電気の二酸化炭素排出係数は2022年度九州電力の調整後排出係数0.467kg-CO₂/kWhを使用する。

2. 化学物質の管理においては、塗料・シンナー・高圧絶縁油などにおいて内容・性質などの把握及びSDSに沿っての適切な取扱と管理の実施を行う。

(目標の設定)

2021年実績から目標値を設定。3カ年の間に1%ずつ排出や使用量の削減、カーボンニュートラルや環境に配慮した活動を目指します。2021年から5カ年をかけて対応可能な社有車を段階的に電動車へ置換えていく脱炭素カーボンニュートラル計画に着手しています。

(グリーン購入について)

文房具等や決まった資材の購入にとどまっており要求事項からも外れているため、活動は継続するものの目標からは外しています。

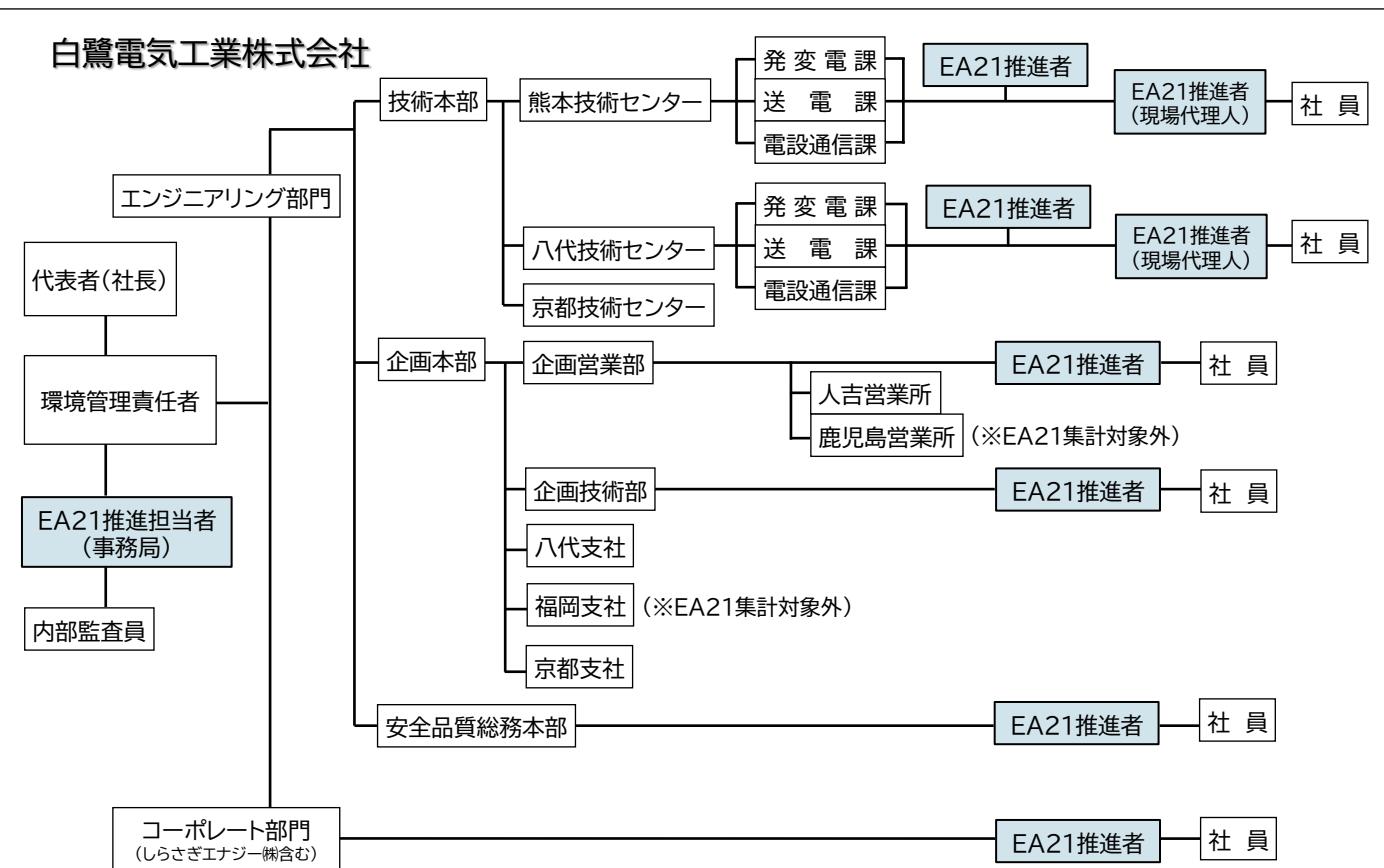
環境経営計画

対象期間／2022.4～2025.3

環境経営方針	取組み事項	実施内容	SDGsの取組み
1 環境に配慮した事業の推進	地球環境問題への取組み	ガソリン、軽油等燃料使用状況・車両管理システムの利用率向上	・車両管理表の記入徹底による燃費管理 ・ドライブレコーダー全車両取付による運転特性の把握 ・Mobility Passport導入による社用車稼働率の向上と記録用紙の削減
		省エネ省コスト製品の提案・導入	・(COOL CHOICE)エコカーの導入、段階的なEV化移行 ・省エネ関連製品の提案・導入促進(EVバス等) ・本社社屋の Nearly ZEB 維持運用管理、ZEH-M社員寮の運用管理 ・Hakobuneの導入運用管理・放牧牛安否確認システムの製品提案・導入
		地域環境活動NPOボランティア	・熊本城と八代城跡の清掃活動 ・森林水源涵養のための植林や下草刈り等の里山保全活動
		電気・水使用の管理	・使用量の把握と節水活動の推進 ・照明の人感センサー・季節ごとのスケジュール機能見直し
		クリーンエネルギーの活用	・太陽光発電事業 ・本社ビルの地中熱利用換気システム、太陽光発電、太陽光利用給湯、蓄電池の利用
	循環型社会形成への取組み	廃棄物排出量の把握	・マニフェストの管理と分別収集の徹底 ・廃棄物排出量の削減
		ペーパーレス化の推進	・プリンターのID管理による無駄な印刷の抑制 ・オンライン会議での資料画面共有による会議資料の印刷削減 ・スマホでも閲覧可能なように添付資料のPDF統一化 ・プリンターの印刷色、デフォルトを白黒にするルール化 ・印刷紙の裏面活用、印刷時の縮小化、両面印刷の推進 ・各種申請、日報、給与明細のシステム化(スマホ or PC閲覧) ・全社員への業務用スマホ、ノートPCの貸与
		グリーン調達の推進	・事務用品、工事資材等の積極的なグリーン商品購入
		ICTを用いた先進的な取組み	・テレワークやオンライン会議を多用し、移動による労働時間やCO ₂ 排出、エネルギー等の削減 ・e-ラーニングによる社員のSDGs教育 ・本社「Nearly ZEB」認定、ZEBリーディング・オーナー登録 ・体温検知システム販売 ・体表温検知システム販売 ・現場支援システムを用いた業務の合理化 ・電気通信工事業者広域連携基本協定締結 ・スマート農業技術の開発 ・VR技術を用いた技術教育の構築
2 法規等の遵守	環境管理の推進	化学物質等の適切な管理・処理及び代替化の取組み	・SDS制度に基づいた化学物質使用量の厳格な在庫管理 ・化学物質使用量の削減 ・資材倉庫、油倉庫の整理整頓
		環境法規制の遵守	・環境法規制の遵守を行い、景観・騒音・振動・悪臭・緑化に配慮する
		ハザードマップ作成	・現場周辺の過去の災害、地形や環境を調べて作成し現場事務所に掲示
		生物多様性に配慮した工法	・工事現場地域の生物多様性に配慮した行動、工法を検討実施する
		災害時の備え BCP対策	・非常用電源の点検、災害対策本部の見直し、連絡体制の模擬訓練 ・長距離無線LANや安否確認システム等連絡手段の確保 ・食料備蓄品、段ボールベッド、簡易型炊き出しセットなどの管理
3 啓発活動の推進	環境活動の推進	環境マネジメントシステムの自律運用	・EA21推進委員会(月1回/年12回) ・クロスパトロール実施(3ヶ月に1回/年4回) ・内部監査の実施 ・防災訓練、環境教育の実施
		各事業所単位の環境活動支援	・地域ボランティアによる環境貢献活動
		職場環境の向上	・働き方改革の推進 ・ワーカーライフバランスの推進 ・ジェンダーダイバーシティマネジメントの推進 ・全フロアWi-Fi化による座席の自由度と効率化 ・ムダムラを無くす文房具の共有化 ・治療と仕事の両立支援、キャリア育成の行動計画策定 ・アルコールチェック義務化の対応 ・業務打合せ時間の見える化 ・経営幹部養成プログラムでの幹部候補育成
4 コミュニケーションの推進	社会との協調	環境コミュニケーションの推進	・食事の機会に「3010運動」の実施 ・インターンシップや会社見学の受け入れ ・会社見学者の即時受付のための体制 ・環境経営レポートの配布(会社見学・採用活動・営業活動時) ・各種環境等コンクールへの応募 ・ホームページにてレポートの公開 ・SNSを用いた会社情報や環境活動の発信 ・各種寄付活動 ・熊本市とカーボンニュートラルの実現及びレジリエンス強化に関する連携協定締結 ・「パートナーシップ構築宣言」で取引先とのパートナーシップ強化

実施体制と活動内容

実施体制



(※EA21集計対象外)について…賃貸オフィス、常駐でないため

順 位	主な責任と権限
代表者(社長)	環境経営方針の制定と、EA21環境マネジメントシステムの統括 環境管理責任者の任命 取組み状況を評価し全般的な見直しの実施及び指示 環境活動への取組みを適切に実行するための資源(人・物・金)の準備
環境管理責任者	代表者より委任を受け環境経営システム全体的な構築、運用、維持に関する責任と権限 環境経営計画の策定及び進捗管理を代表者へ報告 環境関連法規のとりまとめと評価及び環境経営レポートの確認と公表
EA21推進担当者 (事務局)	環境経営における事務局としての環境管理責任者の補佐 環境活動における決定事項を社員全般への伝達及び環境活動記録の取りまとめ 環境上の外部コミュニケーション窓口 環境関連法規の取りまとめ及び環境経営レポートの作成、環境管理責任者への報告
EA21推進者	環境経営の事務所における記録と事務局への報告 事務所内におけるエコ活動の推進 一般廃棄物、産業廃棄物の管理と事務局への報告
EA21現場推進者 (現場代理人)	環境経営の現場における記録と事務局への報告 現場内における緊急事態への対応訓練実施と記録及び事務局への報告 一般廃棄物、産業廃棄物の管理と事務局への報告
社員	環境経営方針、環境目標に沿った環境活動の展開 環境活動における改善点の提言

訓練・教育の実施

2024. 7 出前授業

将来の熊本を担う学生の人材育成を図ることを目的として、八代工業高校に訪問し出前授業を毎年行っています。今年は「両利きの経営」と「既存事業のDX」、「スマート農業」について座学を行いました。実技ではフルハーネスを着用し、実際に使用している工具を使って体験をしてもらいました。



2024. 8 安全総点検

しらさぎグループと協力会社の参加で、今年は桜十字ホールやつしろで実施しました。安全や社長表彰のほかに、八代労働基準監督署からエイジフレンドリー(高年齢労働者の特性に配慮した職場)や化学物質リスクアセスメント、熊本県総合保険センターから健診結果から推測される血管の状態やがんについての講話をうけました。最後は当社と協力会社の代表による安全宣言を行いました。



2024. 9・3 新入社員フォローアップ研修 メンター制度



学生時代とは違った環境で不安が残っている新入社員のために、入社後6ヶ月目・12ヶ月目に外部講師を招き、フォローアップ研修を行っています。また、2022年から始めたメンター制度では、豊富な知識と職業経験を有した社内の先輩社員(メンター)が後輩社員(メンティ)に対して個別支援活動を行っています。キャリア形成上の課題解決を援助して個人の成長を支えるとともに、職場内での悩みや問題解決をサポートします。

2024. 4-2025.3 ワークショップ

新入社員だけでなく、階級別に合わせたリーダー研修やコミュニケーション能力育成などのワークショップも社内外で行っています。

2024. 7 災害訓練

全国安全週間の「災害訓練の日」に合わせて、災害訓練を行いました。各部で実際の事故を想定し、緊急連絡体制や負傷者への対応など関係各所への連携を確認しました。

【訓練】災害情報伝達訓練レベル3 (発電電課)
【訓練】火災事故発生
【第一報】
発生時間： 2024年7月3日 (水) 8:50
場 所： 萩原支所電所
災害状況： 基礎工事ガス切断作業後、資材置き場の型枠材に火が引火し燃えている。
現在、消火器にて消火活動中。
被者有無： 現時点不明
設備被害： 現時点不明

【訓練】災害情報伝達訓練レベル3 (発電電課)
【訓練】火災事故発生
【第一報】
0時10分 火災燃火
人災害無し お客様設備被害、供給支障なし
近隣住宅への被害なし
当社資材置き場のエフレックス管爆発
0時15分
江原代表人→本田部長→山下課長受け
人身被害なしほか情報を安芸本部へ緊急連絡



2024.10 熊本シェイクアウト訓練



地震発生時の迅速な避難行動ができるように防災訓練『熊本シェイクアウト訓練』を毎年行っています。訓練用の音源を基に各々でデスクの下に避難し、揺れが収まるまでの安全確保行動を行いました。

2024.11 消防訓練

熊本本社は2階給湯室、八代支社は1階炊事場から出火したという想定で、火災発生感知器模擬試験、社内通報、消防署通報、避難誘導、人員把握、消火訓練を実施しました。全社員が迅速かつ適切に行動できるよう、定期的な訓練を行っています。



2025.2-4 Salesforce勉強会

運用業務の生産性向上に向けて導入している顧客管理(CRM)システムSalesforceの勉強会を実施しました。これはSalesforceの理解と活用を深めることを目的としています。



2025. 3 安全の日

全社員が八代支社2階に集まり、平成17年に発生した死亡災害や防止対策などを説明し、改めて「安全」について考えました。消防隊員から心肺蘇生やAEDの使い方の指導や講習がありました。また、SDGs教育も行い意識定着を図っています。





••Do••

今年度の表彰・認証

2024.6 九電サステナビリティ賞を受賞

九州電力様が開催される調達パートナー表彰のうち、2024年度創設された賞です。GHG排出量削減、ダイバーシティ経営、地域社会貢献、SDGs達成に向けた各種活動を積極的に展開したことに対して評価をいただきました。



2024.6 熊本県内初「くるみんプラス」認定

厚生労働大臣が認定する子育てサポート企業認定制度「くるみんプラス」の認定を受けました。くるみんは次世代育成支援対策推進法に基づき、従業員の仕事と家庭の両立を支援する企業を認定するもので、「くるみんプラス」はさらに、不妊治療のための休暇制度を設けるなどの条件を満たすことが必要となり、熊本県内で初めての認定となります。



2024.7 日本初のEVを活用した

需給調整市場への参入を開始

当社本社にて「EVを活用した需給調整市場参入開始式」を執り行いました。本事業では、当社と子会社であるしらさぎエナジー㈱が、住友商事㈱と共に、日本初となるEVを活用したネガワット取引事業で需給調整市場に参入します。また、この事業で活用する電動車及び充電設備は2023年12月に熊本市と締結した「カーボンニュートラルの実現及びレジリエンス強化に関する連携協定」で活用する電動車や翌年2月から運用中のHakobuneサービスで導入した電動車および充電設備を含みます。



2024.9 「森林×ACTチャレンジ2024」にて 「グリーンパートナーマーク」を取得

林野庁が創設した「森林×脱炭素チャレンジ」が2024年から「森林×ACTチャレンジ」に名称が変わりました。「森林づくり部門」に応募し、受賞は逃しましたが、当社の水源・里山保全を目的とした森林整備に関する取組みが総合的に評価され、「グリーンパートナーマーク」を取得しています。



2024.6 第63回 福岡広告協会賞

「フィルム広告15秒以内」部門 銅賞受賞

2024.11 ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS フィルム部門Aカテゴリー/地域 ファイナリストを受賞

福岡広告協会が主催する広告賞で15秒CM「しらさぎの恩返し」が銅賞を受賞しました。本作品は当社の知名度アップと地域への「恩返し」の両方の意味を持たせたCMです。その広告賞で入賞した作品のみが一般社団法人ACCが主催するアワード本選へと進み、応募数が多いなか、地域ファイナリストを受賞しています。



2024.10 熊本労働局「熊本労働局長 奨励賞」を受彰

この賞は職場における安全衛生に関する活動が高い水準に達し、他の模範と認められる優良事業場及び長年にわたり安全衛生水準の向上に尽力したことに対して、熊本労働局長から表彰されるものです。



2025.1 環境経営レポート大賞・九州

「選考委員会特別」を受賞

エコアクション21を通じて、SDGsの推進と白鷺電気工業Vision80の4つの柱への取組みが積極的に展開されている点や、多岐にわたる活動を詳細に記述し、企業の環境への真摯な取組みを十分に伝えていることを評価して頂きました。



2025.1 「熊本県森林吸収量認証書」交付

令和5年度の森林整備活動(下草刈り)によって吸収された二酸化炭素量4.34t-CO₂/年の認証書が熊本県から交付されました。この認証制度創設当初から14回連続の交付となります。



2025.2 「熊本市子育て支援優良企業」認定

熊本市が、結婚や妊娠・出産、子育てしやすい職場環境を整備し、子育て世帯が安心して仕事と育児を両立できるよう支援する企業を認定する制度です。この取組みは、企業にとって人材確保や従業員の意欲向上、生産性アップといった戦略的なメリットがあり、労働者にとっても仕事とプライベートのバランスを保ちながら充実感を持って働く環境づくりにつながります。2023年に続き、認定を受けることができました。



2025.3 エコアクション21 オブザイヤー2024

「ソーシャル部門 銀賞」2回目の受賞

エコアクション21認証事業者の環境経営や社会課題解決の取組みを顕彰し、脱炭素社会の実現とSDGs達成を広く発信・加速させることを目的とした表彰制度です。「ソーシャル部門」において4年連続の受賞を果たし、今年は2回目となる銀賞受賞となりました。



2025.3 「健康経営優良法人2025

(中小規模法人部門)」認定

優良な健康経営を実践している法人を「見える化」し、従業員や求職者、関係企業や金融機関などから評価を受けることができる環境を整備することを目的に、経済産業省と日本健康会議が共同で創設した制度です。5年連続6回目の認定となります。





..Do..

今年度のNPO法人しらさぎとの活動 / 今年度の主なSDGs活動

西原村灰床地区下草刈り実施(2024.7)



2022年11月と2023年12月に植林を行った熊本県阿蘇郡西原村造林地にて、社員とその家族、さらに協力会社やお取引先の皆様を含め、総勢85名で下草刈りを実施しました。植林されているのは約1,250本のヤマザクラ、ヤマモミジ、コナラです。樹齢2~3年とまだ小さく、野生動物に新芽を食べられてしまったものもありましたが、誤って切らないよう丁寧に作業を行いました。作業中には走り去るノウサギの姿も見られ、在来動物にとって住みやすい環境づくりが着実に進んでいることを実感しました。



水前寺成趣園清掃活動実施(2024.9)



当社社員・社員の家族・県内企業・熊本市市民活動支援センターあいぽーとを通じてのお申込みの高校生・白鷺OB、総勢73名が参加しました。照明の妨げとなっていた樹木は、高所作業の技術を活かし、高所作業車や脚立を用いて手際よく伐採しました。湧水池では、腰まで水につかり、重い砂利をすくい上げる力仕事を行いました。この清掃活動は出水神社を管理される方々にも大変喜ばされました。



八代城跡清掃活動実施(2024.10)



1999年から清掃活動を継続し、今回で23回目となりました。総勢121名(うち社外47名)で小雨の降るなかでの作業が行われました。八代市を代表する国指定史跡である八代城跡は、別名「白鷺城」とも呼ばれています。当社の社名の由来でもあります。石垣の除草作業では守りの役目を果たしてきた高さ10~20mの石垣の上から人がロープを伝い、石の間に生えている草を丁寧に取り除きます。普段の工事で培った高所作業の技術を活かし、安全第一で効率的に除草作業を行いました。



鉄塔工事の技術を発揮

『ニホンメダカ』を地元の小学校へ寄贈(2024.5)



取引先企業様が取組んでおられた絶滅危惧種であるニホンメダカの育成を2021年から協働で始めました。八代支社で育成し始めたニホンメダカは卵の数も増え、たくさんの稚魚が生まれるようになりました。育てたニホンメダカは地域の小学校へ取引先企業様と一緒に寄贈しています。寄贈時はメダカの生態についての授業を行うため、子供たちに生物多様性の大切さを伝えていく活動となっています。



小学校へ寄贈したときの様子

『3010運動』を実施(2024.7、2024.12、2025.3)



2018年から環境省が推進している「3010運動」に取組んでいます。これは最初の30分間と最後の10分間は席を立たずに食事を楽しむ時間で設定する活動のことです。社員の声から取組みが始まりました。忘年会・花見・社員旅行などの大人数での食事の機会毎に活動を続けています。コロナ禍で食事会を自粛していましたが、4年ぶりに復活した2023年の社員旅行から再開し、家族も含めた総勢200名以上でおこなった「3010運動」の効果は健在でした。これからも続けていく予定です。



啓発三角柱

第6回フードドライブ実施(2024.8-9、2025.1)



2022年から始めたフードドライブを今年は2回実施しました。最初は一つの部署のみで実施していましたが、今では全社的に行っています。主に年末年始やお盆など人々が集まる時期に合わせて開催し、各家庭で食べきれない食品を地域のフードバンクへ持ち込んでいます。今回は災害備蓄食品の入替え時期でもあり、その一部を寄贈しました。年々寄付される食品の量が減少してきていることから、食品管理の意識が根付いてきたと感じています。



2024年8~9月に集まった食品



社員から集まった食品と災害備蓄品の一部を寄贈

取組実績と評価

取組実績

取組期間／2024.4 ~ 2025.3

二酸化炭素総排出量

394,458 CO₂-kg

100%以上



60%以上



60%未満



区分	項目	基準年 2021年実績	単位	2024年 対象期間			
				目標値▲3%	実績	達成度	
二酸化炭素排出量 (電力・ガソリン・軽油)	二酸化炭素 排出量の削減	364,464	kg-CO ₂	346,049	383,696	89%	
電力使用量	電力の削減	167,678	kWh	162,648	152,454	107%	
ガソリン使用量	ガソリンの削減	95,327	L	92,467	79,764	116%	
軽油使用量	軽油の削減	25,194	L	24,438	49,399	49%	
一般廃棄物排出量	一般廃棄物量	8,448	kg	8,195	10,147	81%	
産業廃棄物排出量	産業廃棄物削減	116,681	kg	113,181	94,182	120%	
	リサイクル率(%)	2021年度分から 算出開始	%	—	96.8	96%	
水使用量	水使用量の削減	468	m ³	454	486	94%	
カーボン ニュートラル実現	電動車へのシフト	13	台	16	18	—	
環境に配慮した 事業活動	社会への啓発 活動の推進	2	件/年	2	3	150%	
化学物の管理	化学物質の 適切な管理	1,700	回/四半期	適切な管理	4,381	—	—

(注記) 1. 電気の二酸化炭素排出係数は2022年度九州電力の調整後排出係数0.467kg-CO₂/kWhを使用する。
 2. 化学物質の管理においては、塗料・シンナー・高圧絶縁油などにおいて内容・性質などの把握及びSDSに沿っての適切な取扱と管理の実施を行う。
 3. 灯油と重油は使用量が少ないため、目標には設定しない。

(目標の設定)

2021年実績から目標値を設定。3カ年の間に1%ずつ排出や使用量の削減、カーボンニュートラルや環境に配慮した活動を目指します。2021年から5カ年をかけて対応可能な社有車を段階的に電動車へ置換していく脱炭素カーボンニュートラル計画に着手しています。

(グリーン購入について)

文房具等や決まった資材の購入にとどまっており要求事項からも外れているため、活動は継続するものの目標からは外しています。

2024年度の評価

一時的な軽油使用量増加による二酸化炭素排出量増加という課題に直面しつつも、電気使用量やガソリン使用量の削減、産業廃棄物排出量の削減、電動車シフトの推進、そして多様な環境活動の継続といった成果を上げています。Mobility Passportの活用や地中熱ヒートポンプ、ハイブリッドファン導入などの取組みは、引き続き効率的な環境経営に貢献していくと考えられます。今後も、社員一人ひとりの意識向上と部署を超えた協力体制で、持続可能な社会の実現に向けた取組みをさらに強化してまいります。

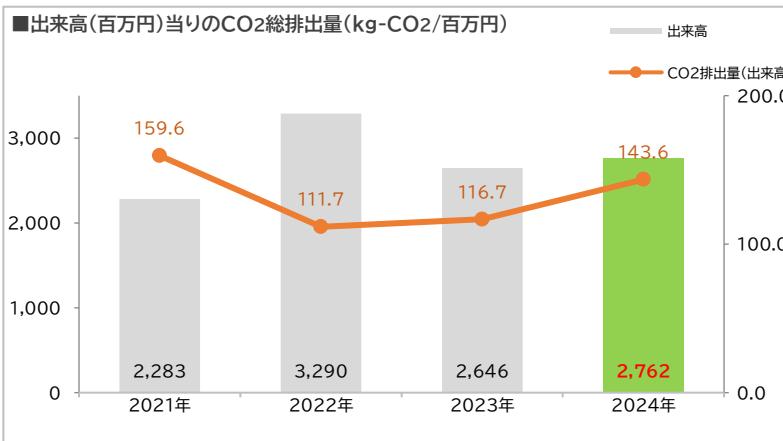
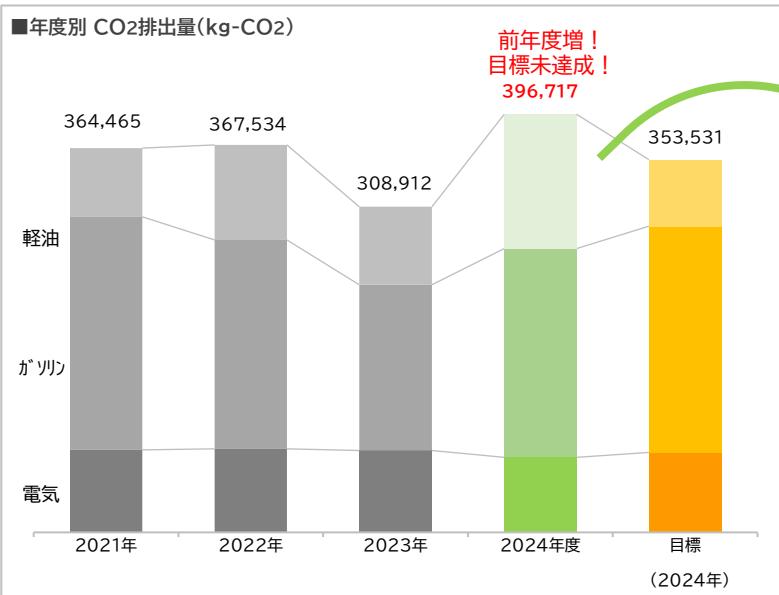
環境経営計画の評価

対象期間／2024.4～2025.3

環境経営方針	取組み事項	実施内容	評価	SDGsの取組み
1 環境に配慮した事業の推進	地球環境問題への取組み	<ul style="list-style-type: none"> ガソリン、軽油等燃料使用状況・車両管理システムの利用率向上 省エネ省コスト製品の提案・導入 地域環境活動 NPOボランティア 電気・水使用の管理 クリーンエネルギーの活用 	<ul style="list-style-type: none"> 車両管理表の記入徹底による燃費管理 ドライブレコーダー全車両取付による運転特性の把握 Mobility Passport導入による社用車稼働率の向上と記録用紙の削減 ・(COOL CHOICE)エコカーの導入、段階的なEV化移行 ・省エネ関連製品の提案・導入促進 ・Hakobuneの運用管理 ・放牧牛安否確認システムの製品提案・導入 ・熊本城と八代城跡の清掃活動 ・森林水源涵養のための植林や下草刈り等の里山保全活動 ・使用量の把握と節水活動の推進 ・照明の人感センサー・季節ごとのスケジュール機能見直し ・太陽光発電所発電事業 ・本社ビルの地中熱利用換気システム、太陽光発電、太陽光利用給湯、蓄電池の利用 ・8代支社のカーポート太陽光発電利用 	<input type="radio"/> 
	循環型社会形成への取組み	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物排出量の把握 ペーパーレス化の推進 グリーン調達の推進 ICTを用いた先進的な取組み 	<ul style="list-style-type: none"> マニフェストの管理と分別収集の徹底 廃棄物排出量の削減 ・プリンターのID管理による無駄な印刷の抑制 ・オンライン会議での資料画面共有による会議資料の印刷削減 ・スマホでも閲覧可能なように添付資料のPDF統一化 ・プリンターの印刷色 デフォルトを白黒にするルール化 ・印刷紙の裏面活用、印刷時の縮小化、両面印刷の推進 ・各種申請、日報、給与明細のシステム化(スマホ or PC閲覧) ・全社員への業務用スマホ、ノートPCの貸与 ・マニフェストの管理と分別収集の徹底 ・廃棄物排出量の削減 ・テレワークやオンライン会議を多用し、移動による労働時間やCO₂排出、エネルギー等の削減 ・e-ラーニングによる社員のSDGs教育 ・社内データの一元管理化 ・本社「Nearly ZEB」認定、ZEBリーディング・オーナー登録 ・体表温検知システム販売 ・現場支援システムを用いた業務の合理化 ・電気通信工事業者広域連携基本協定締結 ・スマート農業技術の開発 ・VR技術を用いた技術教育の構築 	<input type="radio"/> 
	環境管理の推進	<ul style="list-style-type: none"> 化学物質等の適切な管理・処理及び代替化の取組み 環境法規制の遵守 ハザードマップ作成 生物多様性に配慮した工法 災害時の備え BCP対策 	<ul style="list-style-type: none"> SDS制度に基づいた化学物質使用量の厳格な在庫管理 ・化学物質使用量の削減 ・資材倉庫、油倉庫の整理整頓 ・環境法規制の遵守を行い、景観・騒音・振動・悪臭・緑化に配慮する ・現場周辺の過去の災害、地形や環境を調べて作成し現場事務所に掲示 ・工事現場地域の生物多様性に配慮した行動、工法を検討実施する ・非常用電源の点検、災害対策本部の見直し、連絡体制の模擬訓練 ・長距離無線LANや安否確認システム等連絡手段の確保 ・食料備蓄品、段ボールベッド、簡易型炊き出しセットなどの管理 	<input type="radio"/> 
	環境活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 環境マネジメントシステムの自律運用 各事業所単位の環境活動支援 職場環境の向上 	<ul style="list-style-type: none"> EA21推進委員会(月1回/年12回) ・クロス/パトロール実施(3カ月に1回/年4回) ・内部監査の実施 ・防災訓練、環境教育の実施 ・地域ボランティアによる環境貢献活動 ・働き方改革の推進 ・ワークライフバランスの推進 ・ジェンダーダイバーシティマネジメントの推進 ・外国人の雇用 ・全フロアWi-Fi化による座席の自由度と効率化 ・ムダムラを無くす文房具の共有化 ・治療と仕事の両立支援、キャリア育成の行動計画策定 ・アルコールチェック義務化の対応 ・業務打合せ時間の見える化 ・経営幹部養成プログラムでの幹部候補育成 	<input type="radio"/> 
4 パートナーシップの推進	社会との協調	環境コミュニケーションの推進	<ul style="list-style-type: none"> 食事の機会に「3010運動」の実施 ・インターンシップや会社見学の受け入れ ・会社見学者の即時受付のための体制 ・環境経営レポートの配布(会社見学・採用活動・営業活動時) ・各種環境等コンクールへの応募 ・ホームページにてレポートの公開 ・SNSを用いた会社情報や環境活動の発信 ・各種寄付活動 ・熊本と「カーボンニュートラルの実現及びレジリエンス強化に関する連携協定締結 ・「パートナーシップ構築宣言」での取引先とのパートナーシップ強化 	<input type="radio"/> 



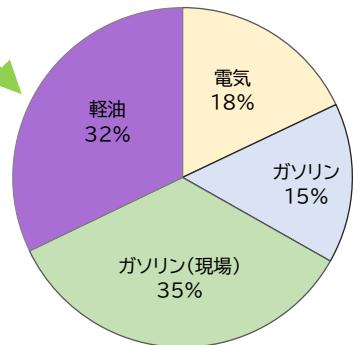
二酸化炭素排出量の削減



走行距離の増加と電動車シフトへの意識づけと 軽油使用量の急増要因

二酸化炭素排出量は前年から増加し、目標値を上回りました。車両使用燃料ではガソリンの使用量が増加しており、社有車の年間総走行距離を昨年と比較したところ、4.6万km増加していました。これは受注した工事現場へ移動する頻度や遠方工事が多かったことが要因と考えられます。また、電動車(EV、PHV、HEV)の走行距離が1.7倍に増加しており、積極的に電動車を使用する意識づけが出来てきたことがうかがえます。車両以外では7月に軽油の使用量が突出しています。お客様設備で電気を止めることができない場合には、発電機を用いて作業する場合があります。今回は電気設備改修工事時の発電機使用と非常用発電設備の試運転等で使用したため、一時的に増加したためです。使用時間尽可能短縮できる施工計画と実施が重要となります。

■2024年 エネルギー使用割合



社有車管理アプリ Mobility Passportの活用

二酸化炭素排出量の削減に向けた取組みの中の一つに、Mobility Passport(※)を活用しています。全社員が社有車を効率良く使用できるよう遊休車を「見える化」し、スマホから予約を行います。



2023年12月からアルコール検知器を使用したアルコールチェック義務化に伴い、早くからチェック登録機能を追加・運用しています。

■ 社用車の予約

2023年08月18日

15 16 17 18 19 20 21

アイミース 03号 (実施... 三河 581 6 126)

車種: ハイブリッド

予約状況: 予約済み

予約登録: 予約済み

■ アルコールチェックの登録

実施しましたか?

実施方法: アルコール検知器(手入力)

実施時間: 08:00

実施結果: 遊休運転

確認者: 横山 弘一

確認方法: 対面

確認者からの指摘はありましたか?

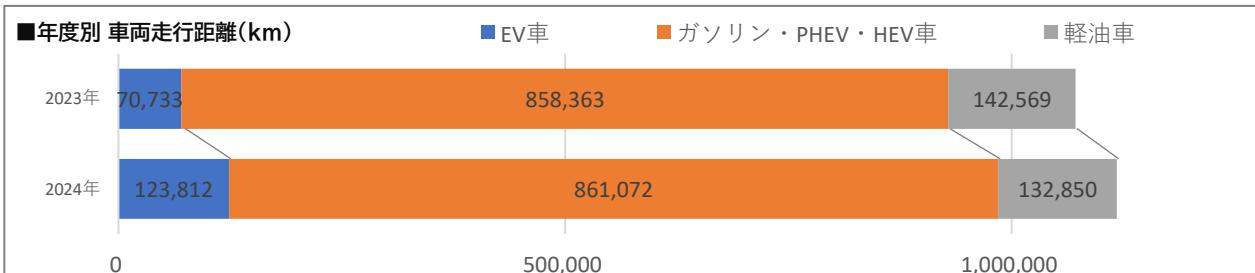
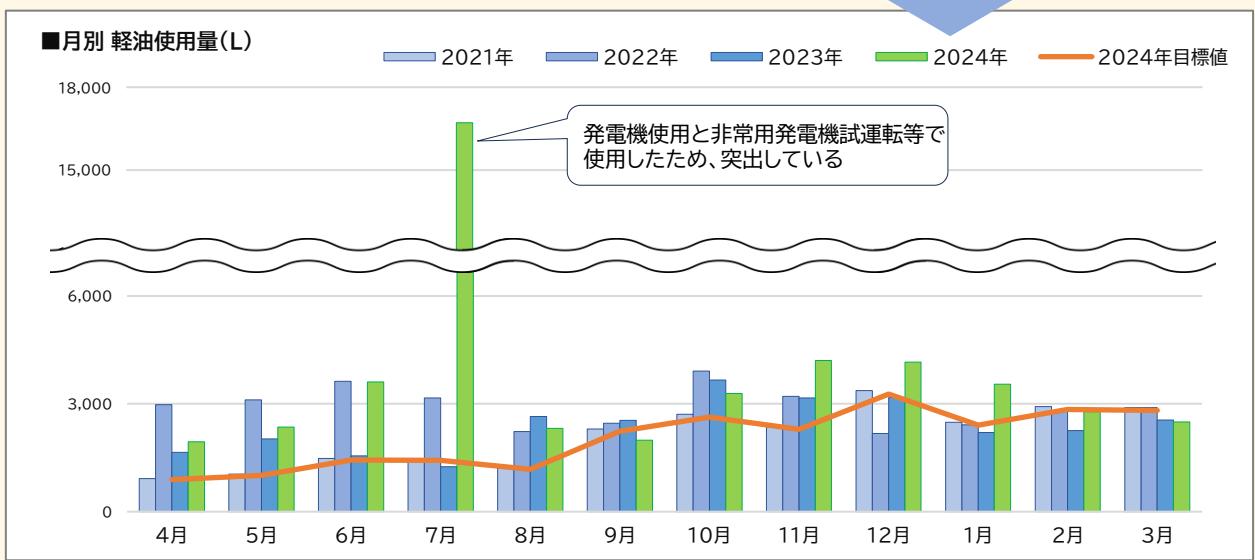
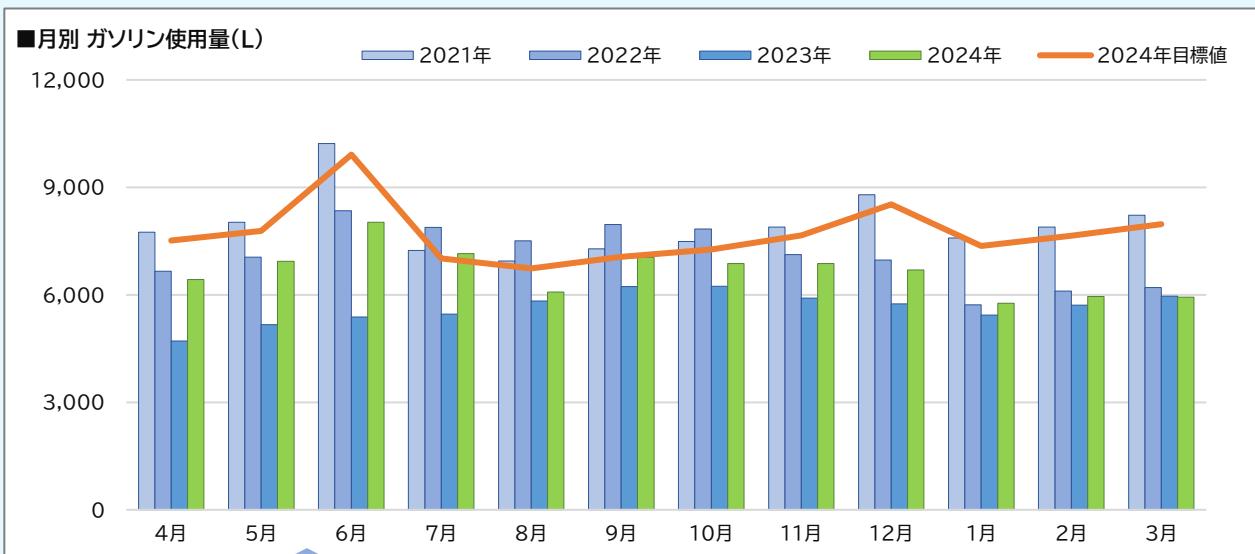
車両予約状況

アルコールチェック登録

※ Mobility Passport …住友三井オートサービス様アプリ

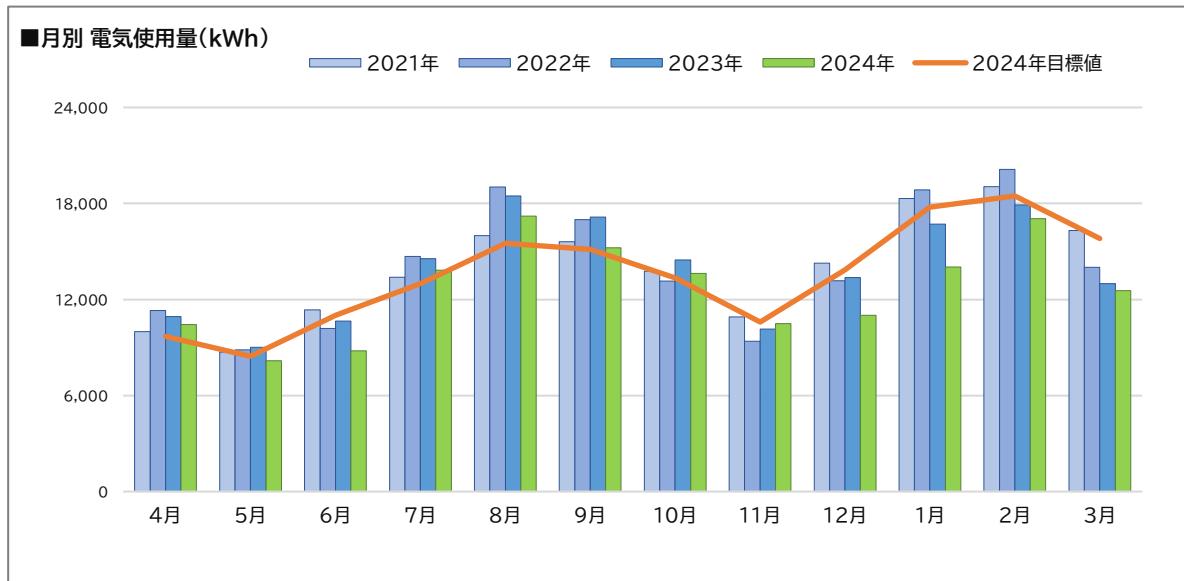


ガソリン・軽油使用量の削減

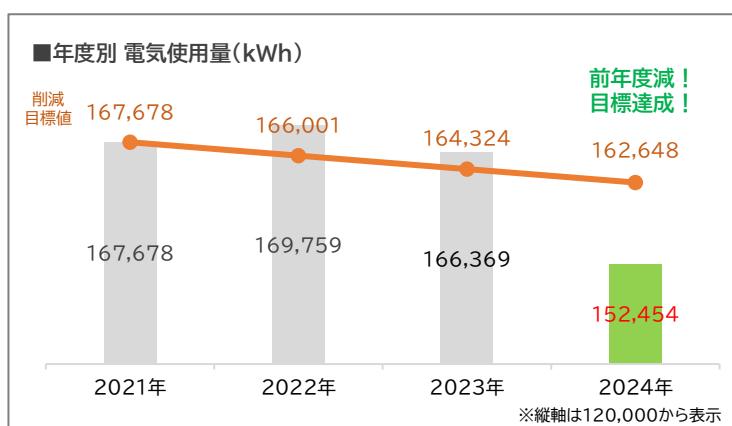




電気使用量の削減



※ データ集計の対象は、本社社屋・八代支社社屋・倉庫・人吉支社・京都支社になります



本社社屋で主に使用している電気設備は？

1位 空調 70%



2位 照明 20%



3位 換気 7%

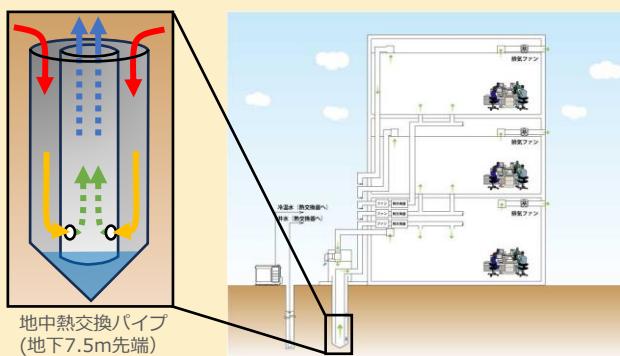


4位 昇降機 2%

※三菱電機ビルソリューションズ㈱の
ファシーマレポートより

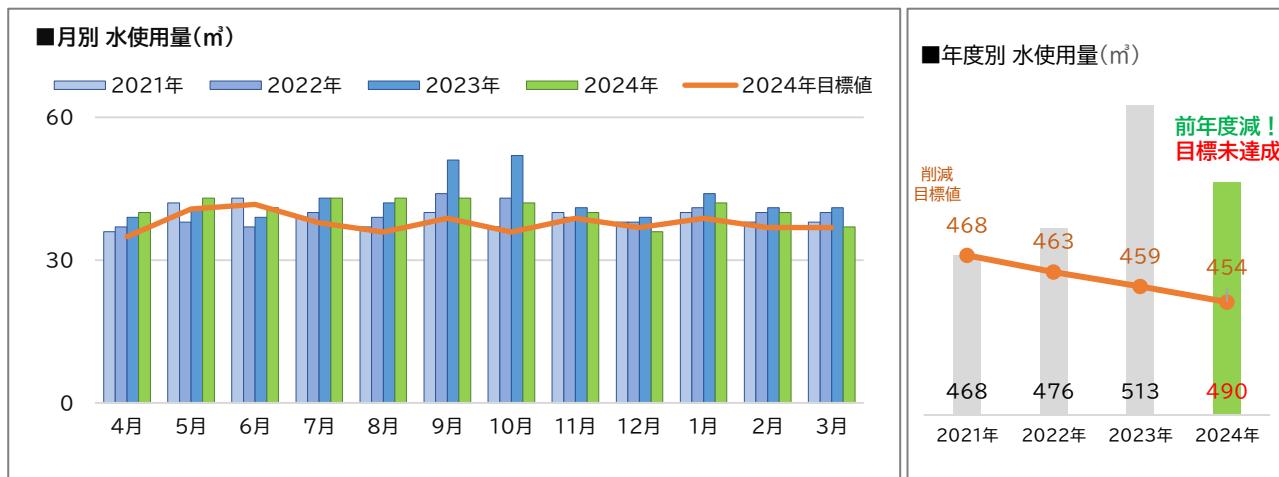
地中熱ヒートポンプとハイブリッドファンで快適＆省エネ

地中は外気に影響されず一定の温度で安定しており、外気温と比べて夏は温度が低く、冬は温度が高くなっています。自然エネルギーである地中熱で換気をしながら建物全体の温度を緩やかに調整し、冷暖房の空調負担を軽減しています。また、エアコンの冷風が直接当たり寒いという社員の声から、本社社屋と支社のエアコン全てにハイブリッドファンの取り付けをおこない、働きやすい職場づくりに繋げています。

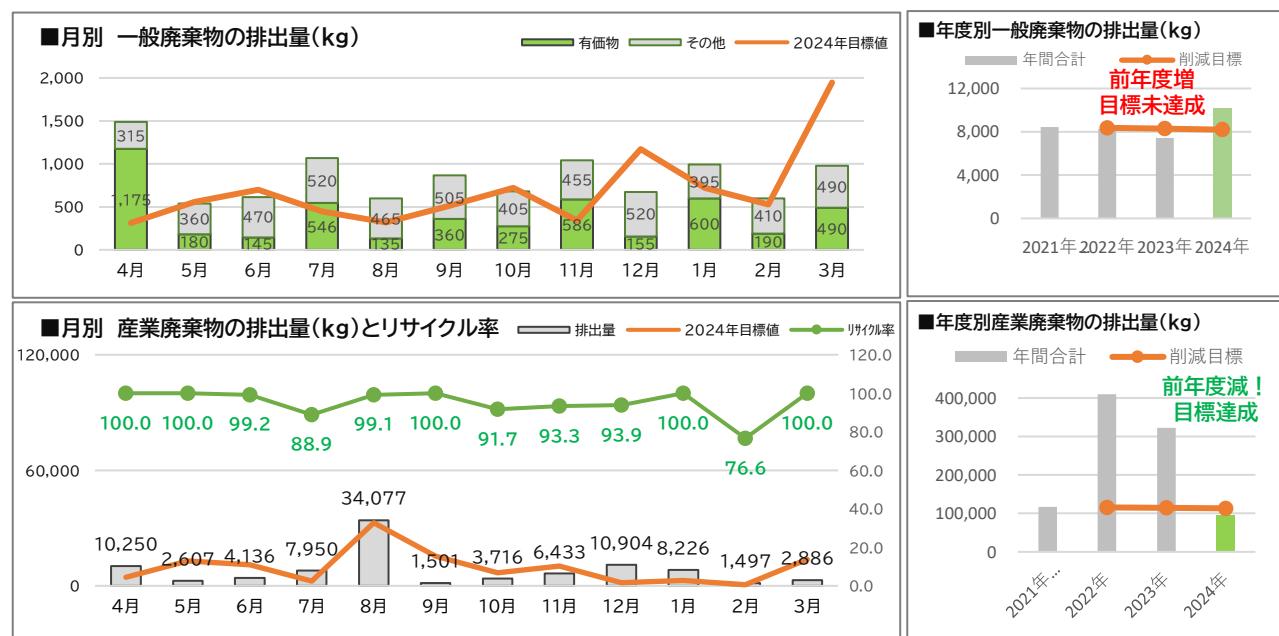


執務室に取り付けたハイブリッドファン

水使用量の削減



廃棄物排出量の削減



現場で出る廃棄物の数量を把握

2022年度から本社社屋・本社倉庫・支社倉庫から出る産廃量と各現場で出る産廃量の数値の集計、リサイクル率の算出を行っています。受注できた工事施工内容によって各月の排出量にバラつきがあり、今年度は産業廃棄物の排出量が大きく減少しています。受注工事によって毎年の廃棄物量が大きく左右されるため、継続してエコアクション21推進委員会などで呼びかけを行い、目標に向けて削減を行つてまいります。

産業廃棄物で多く
排出しているものは？



- 1位 ガラス・コンクリート・陶器くず類 56%
- 2位 金属くず 18%
- 3位 廃プラスチック類 10%
- 4位 木くず 9%



鉄塔は地中深くに埋め込まれたコンクリート基礎の上に建っています。鉄塔立替工事では、そのコンクリートを撤去するため、大量のコンクリートやがれき類が発生します。鉄塔周辺の除草作業で出た草は、産業廃棄物では木くずで処理されています。

白鷺電気工業Vision80 活動実績



本業を深め、広げる

～白鷺電気工業が取組むSDGs～

吊り上げ装置の開発

発変電課では今まで配電盤吊り上げ作業に重量400kg以上では9~10人で作業を行っていましたが、この装置を開発したこと3人で作業できるようになりました。まさに働き方に直結する画期的な開発となりました。現在は施工実績を重ね設計検討が完了し、制作費用・方針について検討と新型を開発中です。



以前の作業



吊り上げ装置使用時の様子



新型吊り上げ装置



新型装置を使った運搬実験

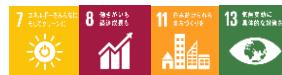
人員・日程調整がしやすくなって労務費も削減！



発変電課 本田部長

※全体の作業としては、玉掛・合図 監視者を考慮し、5名必要になります。

Hakobuneサービス



社員がマイカーとして使用する電動車



それぞれに充電器が設置されている

脱炭素とレジリエンス強化に向けたEV関連事業を推進しています。2023年12月には、日本初の法人向けサブスク形式「EV通勤×職場充電サービス『Hakobune』」を導入しました。このサービスは、通勤時のCO₂排出削減と従業員エンゲージメント向上、社員の費用負担軽減に貢献します。また、災害時にはEVを蓄電池として活用し、共用部への給電や井戸水汲み上げに役立てることで、事業継続計画(BCP)対策を強化します。さらに、2024年7月に日本初のEVを活用した需給調整市場への参入(※1)も果たしています。この事業では、Hakobuneサービスで導入された電動車を含む車両と充電設備を活用しています。

(※1) 本誌P11「今年度の表彰・認証」に詳細を掲載



社内起業を促進する

～白鷺電気工業が取組むSDGs～

安全衛生教育と特別教育の事業化



安全作業に必要な技能や知識を習得するための講座を開催しています。

今まででは社員や協力会社の方々のみ講習をおこなっていましたが、2024年4月からは、社外向けの「安全衛生教育・特別教育」講習サービスの提供を開始しました。これは、工事部門以外からの売上向上を目指す新規事業の一つとして注目されています。今年度は巻上げ機の運転、ロープ高所作業、フルハーネス型墜落制止用器具に関する特別教育などが実施されました。当社の公式ホームページに案内・申込のリンクを掲載していますので、受講をお考えの方はぜひお申込みください。



巻上げ機の座学・実技特別教育

GPSタグによる放牧牛安否確認実証実験



熊本県内で行われているUXプロジェクトの一環として、ICTを活用した放牧牛安否確認システムを開発しています。このシステムは、牛の耳に取り付ける耳標タグにより牛の位置情報と活動量をモニタリングし、設定エリアからの脱柵時には即座にアラートを発します。通信インフラが未整備な広大な放牧地での運用を考慮し、太陽光発電式のGPSタグを用いています。

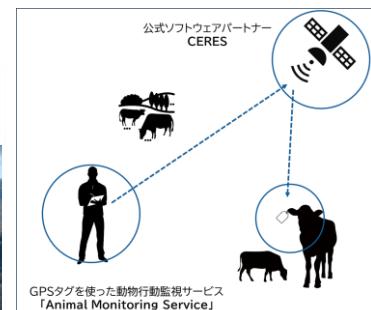
実証実験では、牛の探索効率が約84%向上することが期待でき、牧場管理者の確認作業時間を約61%削減できることが実証されました。これは、畜産農家の高齢化や人手不足という社会課題の解決、および広大な阿蘇地域の赤牛や牧草地保全に貢献できると考えています。将来的には、耳標タグの販売から他県への販売拡大、販売営業代理店の立ち上げ、システム取付指導のライセンス化、業務提携など、事業のさらなるスケールアップに向けた支援を目指しています。



経営戦略室 沖本部長



牛の耳に取り付けるGPSタグ



阿蘇の周年放牧における特有の問題点



働き方改革を実現する

～白鷺電気工業が取組むSDGs～

アスリート社員の雇用と スポンサー契約

アスリート契約社員としてロービジョンフットサル日本代表の赤崎茧さんを2024年8月に雇用しました。競技活動と仕事の両面での成長を支援し、多様な働き方を推進しています。他にも地元高校サッカー部や社員が所属する地域伝統文化を守る太鼓団体とスポンサー契約をすることで、ダイバーシティ推進にも貢献しています。



初のアスリート社員として
業務を両立できるよう頑張ります！



経営戦略室
赤崎さん

企画技術部
内田さん

人的資本経営の推進

人的資本経営コンソーシアムは、日本企業における人的資本経営を実践と開示の両面から促進することを目的とし、人的資本経営の実践に関する先進事例の共有や企業間協力に向けた議論、国内外の人的資本に関する情報の収集・発信と普及を行います。また、人的資本経営の実践の場として、会員と投資家との対話の場も設けられます。



バースデーランチ

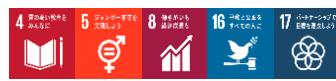


コロナ禍以降「バースデーランチ」を実施しています。これは、社長と誕生日月の社員が交流する機会をもうけることで、コミュニケーションが活性化し、社員一人ひとりの働きがいと幸福度を高めることで、持続的な企業価値向上に貢献します。バースデーランチを通じて社員のエンゲージメントと幸福度を高めることは、人的資本経営の推進に寄与し、ひいては企業の持続可能な成長へと繋がると考えています。



外国人材の積極雇用

少子高齢化による人材不足に対応するため、当社は外国人採用を積極的に進めています。2021年度にはベトナム出身者、2023年度にはナイジェリア出身者を採用し、技術習得とともに社内や現場で活躍しています。安全が第一の現場では日本語の理解が欠かせないため、入社後は日本語教育にも力を入れ、業務が円滑に進むよう支援しています。今後も外国人採用をおこない、文化や価値観の多様性を尊重する職場環境づくりを一層推進していきます。多様な人材が共に成長できる環境整備を通じて、持続可能な企業経営を目指します。



日本語も上達して
仕事に力が入ります！



しらさぎエナジー
タオフィーク社員



さらに地域とともに歩む

～白鷺電気工業が取組むSDGs～



4回目のブライト企業認定

ブライト企業は、熊本県が「ブラック企業」の対極として提唱する独自の造語です。これは、従業員とその家族の満足度が高く、地域雇用や社会貢献を大切にし、安定した経営を行う企業を指します。白鷺電気工業株式会社は、2016年からのべ4回連続でこの認定を受けており、育児休業取得促進、健康経営、多様な人材の尊重、地域貢献活動などを通じて「人を大切にし育てる企業」として評価されています。



企業様会社見学や インターンシップの受け入れ



社屋見学の様子



地元学生に向けた校外学習の様子

2018年に竣工した本社社屋ビルは、高性能な省エネ設備と太陽光エネルギーの積極的な活用など、オフィスビルでは日本初の直流配電+直流給電照明などの最新システムを導入し、正味で75%以上の省エネルギーを達成し、「Nearly ZEB」に認定されています。ZEBリーディングオーナーとして、SDGsの取組みも紹介しながら、会社見学の受け入れを行っています。地元の学生を中心に、インターンシップや会社見学、校外学習の受け入れを積極的に行っており、企業が取組むSDGsの重要性についてや、ボランティア事例の紹介、ZEBの建物見学ツアーなどを通して、未来を担う学生たちに向けた、心に残る校外学習を目指しています。



本社鉄塔ライトアップ



12月に本社のシンボルである鉄塔をライトアップしました。当社は『2050年の子どもたちのために熊本から未来を変える』という合言葉を掲げ、地域への貢献を重視しています。企業活動においても『地域への恩返し』を大切な柱と位置づけており、今回のライトアップもその一環です。鉄塔を彩る光には、日頃の感謝の気持ちと地域社会を明るく照らしたいという願いを込めました。当社のイメージカラーである白鷺ブルーをはじめ、多彩なカラーリングを用いることで「今日は何色だろう」と楽しんでいただけます。さらに、ライトアップの様子をSNSで発信することで、社内外のコミュニケーション活性化にもつながりました。



日によって変わるライトカラー

環境経営目標 2025.4~2028.3

区分	項目 (排出係数)	基準値 2022年~2024年平均	単位	3年間の目標		
				2025年 ▲1%	2026年 ▲2%	2027年 ▲3%
二酸化炭素排出量 (電力・ガソリン・軽油)	二酸化炭素 排出量の削減	348,697	kg-CO ₂	345,215	341,726	338,238
電力使用量	電力の削減 (0.417)	162,861	kWh	161,233	159,604	157,975
ガソリン使用量	ガソリンの削減 (2.29)	79,509	L	78,714	77,919	77,124
軽油使用量	軽油の削減 (2.26)	37,676	L	37,300	36,923	36,546
一般廃棄物 排出量	一般廃棄物削減	8,614	kg	8,529	8,442	8,356
産業廃棄物 排出量	産業廃棄物削減	275,683	kg	272,926	270,170	267,413
水使用量	水使用量の削減	493	m ³	489	484	479
カーボン ニュートラル 実現	電動車へシフト	18(90%) (2024年度実績)	台	19 (1台追加)	20 (1台追加)	21 (1台追加)
環境に配慮した 事業活動	社会への啓発 活動の推進	3	件/年	3	3	3
化学物質の 管理	化学物質の 適切な管理	1	回/ 四半期	1	1	1

- (注記) 1. 電気の二酸化炭素排出係数は2023年度九州電力の調整後排出係数0.417kg-CO₂/kWhを使用する。
 2. ガソリン、軽油の二酸化炭素排出係数は環境省HPに掲載されている「算定方法及び配置出係数一覧(令和5年12月12日
更新)」の数値を試用する。
 3. 化学物質の管理においては、塗料・シンナー・高圧絶縁油などにおいて内容・性質などの把握及びSDSに沿っての適切な
取扱と管理の実施を行う。

(目標の設定)

2021年実績から目標値を設定。3か年の間に1%ずつ排出や使用量の削減、カーボンニュートラルや環境に配慮した活動を目指します。
 2021年から5か年をかけて対応可能な社有車を段階的に電動車(EV・PHEV・HEV)へ置換していく脱炭素カーボンニュートラル計画
に着手しています。

(グリーン購入について)

文房具等や決まった資材の購入にとどまっており要求事項からも外れているため、活動は継続するものの目標からは外しています。

環境経営計画 2025.4~2028.3

環境経営方針	取組み事項	実施内容	SDGsの取組み
1 環境に配慮した事業の推進	地球環境問題への取組み	ガソリン、軽油等燃料使用状況・車両管理システムの利用率向上	・車両管理表の記入徹底による燃費管理 ・ドライブレコーダー全車両取付による運転特性の把握 ・Mobility Passport導入による社用車稼働率の向上と記録用紙の削減
		省エネ省コスト製品の提案・導入	・(COOL CHOICE)エコカーの導入、段階的なEV化移行 ・省エネ関連製品の提案・導入促進 ・本社社屋の Nearly ZEB 維持運用管理、ZEH-M社員寮の運用管理 ・Hakobuneの導入運用管理 ・放牧牛安否確認システムの製品提案・導入
		地域環境活動NPOボランティア	・熊本城と八代城跡の清掃活動 ・森林水源涵養のための植林や下草刈り等の里山保全活動
		電気・水使用の管理	・使用量の把握と節水活動の推進 ・照明の人感センサー・季節ごとのスケジュール機能見直し ・段階的に再エネ由来の電力契約に変更
		クリーンエネルギーの活用	・太陽光発電事業 ・本社ビルの地中熱利用換気システム、太陽光発電、太陽光利用給湯、蓄電池の利用 ・八代支社のカーポート太陽光発電利用
	循環型社会形成への取組み	廃棄物排出量の把握	・マニフェストの管理と分別収集の徹底 ・廃棄物排出量の削減
		ペーパーレス化の推進	・プリンターのID管理による無駄な印刷の抑制 ・オンライン会議での資料画面共有による会議資料の印刷削減 ・スマホでも閲覧可能なように添付資料のPDF統一化 ・プリンターの印刷色・デフォルトを白黒にするルール化 ・印刷紙の裏面活用、印刷時の縮小化、両面印刷の推進 ・各種申請、日報、給与明細のシステム化(スマホ or PC閲覧) ・全社員への業務用スマホ、ノートPCの貸与
		グリーン調達の推進	・事務用品、工事資材等の積極的なグリーン商品購入
		ICTを用いた先進的な取組み	・テレワークやオンライン会議を多用し、移動による労働時間やCO ₂ 排出、エネルギー等の削減 ・e-ラーニングによる社員のSDGs教育 ・社内データの一元管理化 ・本社ZEBランク「Nearly ZEB」認定維持or復帰、ZEBリーディング・オーナー登録として活動 ・体温検知システム販売 ・現場支援システムを用いた業務の合理化 ・電気通信工事事業者広域連携基本協定締結 ・スマート農業技術の開発
		化学物質等の適切な管理・処理及び代替化の取組み	・SDS制度に基づいた化学物質使用量の厳格な在庫管理 ・化学物質使用量の削減 ・資材倉庫、油倉庫の整理整頓
2 法規等の遵守	環境管理の推進	環境法規制の遵守	・環境法規制の遵守を行い、景観・騒音・振動・悪臭・緑化に配慮する
		ハザードマップ作成	・現場周辺の過去の災害、地形や環境を調べて作成し現場事務所に掲示
		生物多様性に配慮した工法	・工事現場地域の生物多様性に配慮した行動、工法を検討実施する
		災害時の備え BCP対策	・非常用電源の点検、災害対策本部の見直し、連絡体制の模擬訓練 ・長距離無線LANや安否確認システム等連絡手段の確保 ・食料備蓄品、段ボールベッド、簡易型炊き出しセットなどの管理
		化学物質等の適切な管理・処理及び代替化の取組み	・SDS制度に基づいた化学物質使用量の厳格な在庫管理 ・化学物質使用量の削減 ・資材倉庫、油倉庫の整理整頓
3 啓発活動の推進	環境活動の推進	環境マネジメントシステムの自律運用	・EA21推進委員会(月1回/年12回) ・クロスバトロール実施(3カ月に1回/年4回) ・内部監査の実施 ・防災訓練、環境教育の実施
		各事業所単位の環境活動支援	・地域ボランティアによる環境貢献活動
		職場環境の向上	・働き方改革の推進 ・ワークライフバランスの推進 ・ジェンダーダイバーシティマネジメントの推進 ・外国人の雇用 ・全フロアWi-Fi化による座席の自由度と効率化 ・ムダムラを無くす文房具の共有化 ・治療と仕事の両立支援、キャリア育成の行動計画策定 ・アルコールチェック義務化の対応 ・業務打合せ時間の見える化 ・経営幹部養成プログラムでの幹部候補育成
4 コミュニケーションの推進	社会との協調	環境コミュニケーションの推進	・食事の機会に「3010運動」の実施 ・インターナーシップや会社見学の受け入れ ・会社見学者の即時受付のための体制 ・環境経営レポートの配布(会社見学・採用活動・営業活動時) ・各種環境等コンクールへの応募 ・ホームページにてレポートの公開 ・SNSを用いた会社情報や環境活動の発信 ・熊本市と「カーボンニュートラルの実現及びレジリエンス強化に関する連携協定締結 ・「パートナーシップ構築宣言」で取引先とのパートナーシップ強化

環境関連法規への確認および評価、違反・訴訟

環境法規制の遵守活動を行い、その遵守状況の評価を行った結果、環境法規制への違反はありませんでした。
環境法規制の遵守活動を通して、関係当局より違反等の指摘はありませんでした。

遵守評価日：2025年4月25日

法規制等	遵守事項(法規制/自主規制)	遵守評価
家電リサイクル法	・取引業者への適正な引き渡し(発生時のみ)	○
自動車リサイクル法	・取引業者への適正な引き渡し(発生時のみ)	○
フロン排出抑制法	・廃棄時の適正処置(発生時のみ)・処理委託書提出、処理報告書の受理 ・特定施設の自主点検の実施	○
建設リサイクル法	・工事に係る分別、再資源化の実施・再資源化完了の書面報告 ・対象工事の7日前までの市町村長への届出	○
騒音規制法	・知事へ7日前までに届出(指定区域周囲80m) ・作業敷地境界にて85デシベル以下・空調機(本社・支社)の届出	○
振動規制法	・知事へ7日前までに届出(指定区域周囲80m)・作業敷地境界にて75デシベル以下	○
廃棄物処理法	・産業廃棄物の保管・委託契約書(5年間保存) ・マニフェスト伝票管理(5年間保存)・産業廃棄物管理表交付、状況報告 ・産業廃棄物の運搬(運搬車への表示・マニフェスト伝票の携帯)	○
消防法	・市町村条例で定める(指定数量の1/5以上、指定数量未満の場合、あらかじめ届出)	○
建設汚泥の再生利用に関するガイドライン等	・適切な調査、設計、施工及び管理を行う・リサイクルの結果を確認し、記録を保存	○
オフロード法	・特定特殊自動車排出ガスの規制	○
悪臭防止法	・塗料等を使用する場合の作業量や時間帯の検討	○
道路法	・公共道路を使用する場合(道路管理者へ道路占用許可の申請)	○
道路交通法	・公共道路を使用する場合(管轄の警察署へ道路使用許可の申請)	○
水質汚濁防止法	・知事に60日前までに届出・測定を実施(記録の保存3年間)	○
下水道法	・公共下水道管理者にあらかじめ届出・生活環境項目については、条例による	○
毒物及び劇物取締法	・メチルその他化学物質の表示、保管(八代支社)	○
地下水保全条例(熊本県)	・ポンプ(本社)の届出(地下水採取の届出及び地下水涵養の取組み)	○
浄化槽法	・定期点検、法定点検の実施(八代支社)	○

(参考資料について)

『環境LDB法令集〈建設工事編〉(監修 一般社団法人 日本建設業連合会)』を毎年更新し、社内でダウンロードして使えるようにしています。

代表者による全体評価と見直し

2024年度は二酸化炭素総排出量は、目標を12.6%上回りました。主な要因は県外工事の増加により、社有車の総走行距離が前年比4.6万km増加したことです。一方で、EV車の走行距離が前年の約2倍に達したことは、電動車の積極的な活用意識が高まっている証であり、今後の脱炭素化へ向けて大きく前進したと評価しています。

電気使用量は目標を6.3%下回って達成しました。本社社屋の Nearly ZEB 認定ビルにおける地中熱ヒートポンプとハイブリッドファンの相乗効果により、空調負荷を大幅に削減しながら、快適な執務環境を実現しています。産業廃棄物排出量は目標を16.8%下回りました。しかし、廃棄物の56%がガラス・コンクリート・陶器くず類、18%が金属くずと鉄塔建替工事由来の廃棄物が大きな割合を占めており、今後は効率的なリサイクル処理や、より高度な分別、再資源化を行うなど、発生量の抑制に取り組む方針です。

DXによる業務改善も着実に進展しています。車両管理アプリによる社有車の稼働率向上とペーパーレス化を実現し、アルコールチェックを通じて、環境意識の社内浸透と機能の一元化で安全管理も効率化しました。また、社員参加型のSDGs活動として、フードドライブ、3010運動、ニホンメダカの寄贈などを通じて、環境意識の社内浸透と地域社会への貢献の両立を図りました。

2025年度からの新たな3か年計画では、今年度の課題を踏まえ、二酸化炭素排出量年1%の削減の継続とともに、再エネ由来電力への段階的移行も新たに目標化いたします。

創立80周年となる2027年に向け、「白鷺電気工業Vision80」の4本柱を軸に、持続可能な企業価値向上と、地域貢献をより一層強化してまいります。熊本から全国へ、そして次世代へと続く価値創造に全社一丸となって取組む所存です。

代表取締役社長 沼田 幸広

総括的な見直し指示

環境経営方針	環境経営目標	環境経営計画	実施体制
現在の方針を継続	2022年度～2024年度の実績数値を基に、次期中期目標を作成	現状の取り組み内容に合う計画の策定	2025年7月の組織改編に合わせて実施体制を改訂

資格取得一覽



※令和7年3月31日時点：全78種が「資格手当支給対象」となり
努力が実る制度が作られています。以下資格はその一例です。

第一種電気主任技術者	第三種電気主任技術者	電気通信主任技術者（伝送交換）	電気通信主任技術者（線路）
1級電気工事施工管理技士	2級電気工事施工管理技士	1級土木施工管理技士	2級土木施工管理技士
1級管工事施工管理技士	2級管工事施工管理技士	1級電気通信工事施工管理技士	第一種電気工事士
監理技術者（電気）	監理技術者（通信）	監理技術者（土木）	1級 機械保全技能士
測量土補	消防設備士 甲類	消防設備士 乙類	工事担任者総合職（AI・DD）
工事担任者1種 (AI・DDデジタル・アカガ含む)	工事担任者2,3種 (AI・DDデジタル・アカガ含む)	第一級陸上無線技術士	陸上特殊無線技士一級
陸上特殊無線技士二級	危険物取扱 乙類第4類	宅地建物取引士	第1種衛生管理者
品質管理検定2級	品質管理検定3級	工コ検定	日商簿記2級
日商簿記3級	2級建設業経理士	3級建設業経理事務士	ITパスポート
ビジネスコンプライアンス検定初級	秘書技能検定準1級	秘書技能検定2級	サステナ経営検定2級
サステナ経営検定3級	キャリアコンサルタント	防災士	Salesforce認定アソシエイト など

白鷺電気工業 公式キャラクター
ドレミファしらさぎ

